

2023 Super FJ 日本一決定戦

協賛各社：住友ゴム工業株式会社・東海電装株式会社・株式会社ファーストモルディング・自動車工房 MYST



モビリティリゾートもてぎ

2023年 12月9～10日 天候:晴れ 参加31台



テキスト:はた☆なおゆき

モータースポーツのシーズンエンドを告げる、風物詩とも言える一戦「Super FJ 日本一決定戦」が、12月9～10日にモビリティリゾートもてぎで開催された。以前は鈴鹿サーキットとの隔年開催だったが、昨年は2000年以来の開催となった富士スピードウェイで行われたため、もてぎでは3年ぶりとなる。

FJ1600の時代を含めると、実に26年もの歴史を誇るレースは、賞典も充実。優勝すれば、JSS（ジャパンスカラシップシステム）ファイナルレース賞として50万円、さらにダンロップ賞として50万円が授与される。また、今大会も東海電装ファイナルスタート賞として、ファイナルレースをスタートした全ドライバーに対し2万円が、車両のメンテナンスガレージにも、同様にJSSファイナル・メンテナンス賞の2万円が授与される。

今大会もトーナメント制で、予選、そして第1レグ改めセミファイナル、ファイナルの順で競われ、セミファイナルまではAグループとBグループに分けられる。タイヤは前輪が4本、後輪が4本、それぞれ2セットの使用が可能である。

今年、もてぎのSuper FJは4戦行われ、Wヘッダー開催の第1戦、第2戦は池田拓馬選手(TAKE FIRST & AMEROID)が連勝し、第5戦は中澤凌選手(ZAP NAKs 10V ED)が優勝。そして、最

終戦では白崎稜選手(TAKE FIRST スタッフリソース & QUICK 羽生)が勝ち、シリーズとしては内田涼風選手(群馬トヨペット RiNoA ED)がチャンピオンを奪っている。このあたりはもちろん優勝候補として挙げられるが、近頃はシーズン途中から出場した 10 代のドライバーの台頭が著しく、想像以上の結果になることも十分考えられる。

12 月も半ばに入ろうという時期の開催であるだけに、極寒を覚悟して誰もがサーキットに乗り込んだはずだが、今年は暖冬ということもあって、日中ピットガレージでストーブに火を入れるチームは皆無だった。

今大会のエントリーは 31 台。昨年が 41 台で、同じくもてぎで開催された 2020 年も 34 台だったから、少々寂しいところではあるが、4シリーズのチャンピオン全員が集い、さらに前述の急成長の 10 代も揃って顔を見せているだけに、不思議と物足りなさはない。



公式予選 A グループ

予選を A グループで臨むチャンピオンは白崎選手、そしてオートポリスの宇高希選手(TAKE FIRST R&D)だ。ピットがいちばん1コーナー寄りだった、このふたりが最初にコースイン。寒過ぎないとはいえ、8 時 40 分のスタートだけに、路面温度は当然低い。タイヤのウォームアップは普段以上に入念に行われ、本格的なアタック開始はそれぞれ計測 4 周目あたりから。

2 分 5 秒台を最初に切って、まずはトップに躍り出たのが白崎選手だ。そのままタイムを詰め続けて、計測 6 周目には 2 分 4 秒 436 を記す。その次の周には 2 分 4 秒 239 にまで短縮するも、さらに上回ってきたのが迫隆真選手(EAGLE ERS S-FJ)だった。

前週の鈴鹿・岡山シリーズ第7戦で、デビュー2戦目で優勝を飾った期待の 16 歳、迫選手は 2 分 4 秒 129 をマークしたばかりか、さらに次の週のラストアタックでは 2 分 3 秒 858 にまで短縮！逆に白崎選手は、さらなる短縮を果たせなかった。3 番手にはラストアタックで 2 分 4 秒 250 を記録した椎橋祐介選手(FG&SW NMSP 919 KKSII)がつけた。宇高選手は 11 番手に留まった。

予選 A グループトップ:迫隆眞選手(EAGLE ERS S-FJ)

「昨日の練習走行から 3 秒台に入っていたので、今日も 3 秒台が出ればいいなと思って走っていました。路面は温度はやっぱり昨日の午後に比べたら低くて、走らせ方もギヤも全部変わってくるんですけど、そこをニュータイヤでカバーして、うまく合わせることができました」

予選 A グループ 2 番手:白崎稜選手(TAKE FIRST スタッフリソース & QUICK 羽生)

「ブレーキバランス合わせるのに四苦八苦して、最後までちょっと合わせきれなかったのがありますね。ミスもしてしまったので 2 番手、しょうがない。でも、いい位置ですから、スリップについていけないので、また考えて走ります」

予選 A グループ 3 番手:椎橋祐介(FG & SW NMSP 919 KKSII)

「昨日に比べれば、良くなりました。昨日、うちのチームの 2 台はニュータイヤを入れていなかったの、それでちょっとタイム差があって、実際タイヤ入れて、どのぐらい詰まるか分からなかったのと、ニューにしてセットアップが、昨日考えていたことが、やりすぎちゃったかなというところがあるので、そこを修正できれば、今日の 6 周も行けると思います」

2023 S-FJ 日本一決定戦

スーパーFJ 公式予選 A Gr.

2023 / 12 / 9

MOBILITY RESORT
MOTEGI
Road Course(4,801m)

正式結果表

Weather :Fine
Track :Dry

Pos	No	Class	C.P.	Name	Type	Best Time	Delay / Gap	B/L	CarName
1	71			迫隆眞	KK-S II	2'03.858		9 / 9	EAGLE ERS S-FJ
2	91			白崎稜	KK-S II	2'04.219	0.361 0.361	8 / 10	TAKEFIRST スタッフリソース & QUICK羽生
3	53			椎橋 祐介	KK-S II	2'04.250	0.392 0.031	10 / 10	FG&SW NMSP 919 KKS2
4	27			豊島 里空斗	KK-S II	2'04.327	0.469 0.077	9 / 10	C.S.I Racing ED
5	11			村田 悠磨	KK-S II	2'04.373	0.515 0.046	10 / 10	Rn-sports制動屋Vieureka
6	1			元山 泰成	KK-S II	2'04.837	0.979 0.464	8 / 10	Ecotech Racing F
7	7			渡会 太一	KK-S II	2'04.864	1.006 0.027	8 / 10	FTKレギュレーション「ガレージ」
8	36			磐上 隼斗	RD10V	2'05.033	1.175 0.169	9 / 9	アルビ'富士吟景GIAED
9	55			板倉 慎哉	KK-S II	2'05.318	1.460 0.285	9 / 10	AMORE TOKYO☆表参道☆KKS II
10	83			榊木 大河	RD10V	2'05.536	1.678 0.218	8 / 9	ZAP SPEED RD10V ED
11	23			宇高 希	RD10V	2'05.558	1.700 0.022	10 / 10	TAKE FIRST R&D
12	17			飯田 有希	KK-S II	2'06.637	2.779 1.079	6 / 10	FarEastRacing・KK-S II・D-BONDS
13	21	G	1	太田 浩	KK-S II	2'07.890	4.032 1.253	9 / 10	ミスト・セキグチ・制動屋
14	78	G	2	柴田 泰知	RD10V	2'08.758	4.900 0.868	7 / 9	ZAP SPEED RD10V ED
15	24			甲山 晴翔	RD10V	2'09.436	5.578 0.678	3 / 3	Vivalavida でさん子10VED

***** 以上予選通過 (2'41.341 - 130%) *****

公式予選 B グループ

A グループ同様、タイヤのウォームアップは各自入念に行うも、早々と計測 3 周目に 2 分 4 秒台に入れたのが田中風輝選手(24system タイヤサービス M2 KK-SII)だ。白坂選手とタイトルを最後まで争い合った 17 歳のドライバーが、そのまま周を追うごとタイムを詰めていくが、計測 5 周目に前週の鈴鹿・岡山シリーズで優勝を飾ったばかりの 16 歳、堂園鷲選手(K デンタルオフィス☆ミスト)が 2 分 4 秒 253 で、小田優選手(AUTOBACS Drago CORSE)が 2 分 4 秒 318 で上回っていく。

しかし、それに堂園選手は留まってしまったのに対し、小田選手は次の周に 2 分 4 秒 082 を出してトップに立ったばかりか、そのまた次の周には 2 分 3 秒 926 にまで短縮を果たす。さらに 1 周

軽くクールダウンを挟んで、ラストアタックでは 2 分 3 秒 712 を叩き出して、ダメ押しの一発に成功！ タイミングを同じくして、田中選手も 2 分 3 秒 944 を記録して 2 番手に浮上。堂園選手が 3 番手で、4 番手には 2 分 4 秒 399 をマークしていた、もてぎ・菅生チャンピオンの内田選手がつけていた。

小田選手は昨年全日本カート選手権 OK クラスのチャンピオン。18 歳で Super FJ にはシーズン中盤からの参戦ながら、このレースにしっかりピークを合わせてきた。

B グループで臨んだ、もうひとりのチャンピオン、筑波・富士シリーズを制していた小村明生選手 (FIRST GARAGE REAXION) は 8 番手だった。

予選 B グループトップ: 小田優選手 (AUTOBACS Drago CORSE)

「だんだんレースの環境に慣れてきて、もてぎが僕とは相性いいようです。それで調子は良くいられていますね、今のところは。最初は路面温度が低くて、ペース上げられなかったんですが、だんだん温まってきて、うまく攻められたので良かったと思っています」

予選 B グループ 2 番手: 田中風輝選手 (24SYSTEM タイヤサービス M2 KK-SII)

「3 秒台は出るだろうという思いで、狙いどおりです。狙いどおりではあるんですけど、トップにはなれなかったのが、ちょっと。先週はいろいろ反省点があって、その辺りを今週に繋げられたらと思っています」

予選 B グループ 3 番手: 堂園鷲選手 (K デンタルオフィス☆ミスト)

「ちょっと、まだ昨日からの問題なんですけど、セクター1があんまり良なくて、昨日のデータ見て試したんですけど、全然そこだけで遅れちゃって。セクター2 では全体ベスト出ていて良かったんですけど、そこだけで遅れているのが……。他のドライバーの後ろにつけばわかると思うので、そういうのもレースになれば、途中でアジャストできると思います」

2023 S-FJ 日本一決定戦

スーパーFJ 公式予選 B Gr.

2023 / 12 / 9



正式結果表

Weather : Fine
Track : Dry

Pos	No	Class	C.P.	Name	Type	Best Time	Delay / Gap	B/L	CarName
1	34			小田 優	KK-S II	2'03.712		10 / 10	AUTOBACS Drago CORSE
2	2			田中 風輝	KK-S II	2'03.994	0.282 0.282	10 / 10	24systemタイヤサービス M2 KK-S II
3	56			堂園 鷲	KK-S II	2'04.253	0.541 0.259	6 / 10	K デンタルオフィス☆ミスト
4	82			内田 涼風	KK-S II	2'04.299	0.587 0.046	10 / 10	群馬トヨペット RiNoA ED
5	72			角間 光起	RD10V	2'04.513	0.801 0.214	7 / 10	ELEVレーシング 10VED
6	97			池田 拓馬	KK-S II	2'04.545	0.833 0.032	10 / 10	TAKEFIRST & AMEROID
7	81			池内 比悠	KK-S II	2'04.595	0.883 0.050	8 / 10	群馬トヨペット RiNoA ED
8	52			小村 明生	KK-S II	2'04.788	1.076 0.193	7 / 9	FIRST GARAGE REAXION
9	15			小田部 憲幸	RD10V	2'04.799	1.087 0.011	9 / 10	いえらいふ ZAP 設楽 小山田会 ED
10	86			村田 将輝	KK-S II	2'04.855	1.143 0.056	9 / 10	湘工冷熱ZAPSPEED ED
11	57	G	1	吉田 宣弘	KK-S II	2'05.032	1.320 0.177	8 / 10	EXTREME☆MYST☆GY☆KKS- II
12	69			梅本 幸汰	KK-S II	2'05.151	1.439 0.119	9 / 10	Rn-sports制動屋KK-S2
13	79			中澤 凌	RD10V	2'05.164	1.452 0.013	10 / 10	ZAP NAKs 10VED
14	14			熱田 行雲	RD10V	2'05.266	1.554 0.102	10 / 10	ZAP10VED
15	37			青木 諒太	RD10V	2'09.962	6.250 4.696	5 / 9	かのせ温泉赤湯with Albirex RT ED GIA
16	16	G	2	大貫 直実	F109	2'30.903	27.191 20.941	5 / 5	グレート1・オートレット・SUZUBAN F109

***** 以上予選通過 (2'41.182 - 130%) *****

セミファイナル A グループ

セミファイナルは 6 周での争い。A グループのポールポジション(PP)に着いたのは迫選手。

だが、スタートに出遅れてしまい、白崎選手の先行を許してしまったものの、それでも 2 番手に留め、3 番手が激しく争われている間に、早くもトップグループを形成する。

その 3 番手争いだが、1周目を終えた時点でのリーダーは 6 番手スタートの元山泰成選手 (Ecotech Racing F) で、椎橋選手、渡会太一選手 (FTK レヴレーシングガレージ)、村田悠磨選手 (Rn-sports 制動屋 Vieureka) らが続いて大渋滞。2周目の3コーナーで元山選手に仕掛けた椎橋選手だが、抜ききれずスピンを喫し、大きく順位を落としてしまう。

トップは白崎選手と迫選手がなおも競い続けていたが、5周目の1コーナーで迫選手がコースアウト。「足回りのどこかが壊れて、真っすぐしか進めなくなった」というが、メカニック曰く「縁石に寄せすぎて、リヤのアームの付け根が壊れていた」が理由だった。

これで後続に 6 秒もの差をつけた白崎選手だったが、不覚にもラスト2周をペースダウン。ファイナルの PP は、セミファイナルの走行タイムで決まる、12 分 32 秒 178 は果たして……。

一方、迫選手のリタイア後、注目された 2 番手争いだが、元山選手は5周目に村田選手に、そして最終ラップに渡会選手にも抜かれていた。村田選手、渡会選手の順でゴール。

セミファイナル A グループ 1 位: 白崎稜選手 (TAKE FIRST スタッフリソース & QUICK 羽生)

「僕も実はスタートではホイールスピンさせすぎちゃって、後ろの選手の方がいいスタート切っていましたね。迫選手がミスったので、トップに立てましたが。(迫選手のリタイア後は) 差が開いたので、もてぎは縁石が高いから積極的に労って走らないと、ファイナルの 10 周走ったら保たないかも、というのがよぎったのでケアして。でも、ちょっとやりすぎましたね」

セミファイナル A グループ 2 位: 村田悠磨選手 (Rn-sports 制動屋 Vieureka)

「スタートで空転しちゃって焦ってしまい、アクセルを多く踏んでしまって、まわりの 2、3 台に抜かれたのが反省点です。それで前と離れちゃったので、できるだけ抜こうと。3 番手までかなと思っていたら、1 台いなくなっていたのはラッキーでした」

セミファイナル A グループ 3 位: 渡会太一選手 (FTK レヴレーシングガレージ)

「予選まで調子悪かったんですが、やっと原因が分かりました。ダンパーが抜けていて、さっき見つかったの。それを替えたら良くなりましたが、みんなよりセッティング的には遅れているので、ここからちょっと前を振り返ってセットを詰めつつ、ファイナルに向けて頑張りたいなと思っています」





Road Course(4,801m)

正式結果表

Weather :Fine

Track :Dry

Pos	No	Class	C.P.	Name	Type	Lap	Total Time	Delay / Gap	Best	B/L	CarName
1	91			白崎 稜	KK-S II	6	12'32.178		2'03.980	4 / 6	TAKEFIRST スタッフリソース & QUICK羽生
2	11			村田 悠磨	KK-S II	6	12'37.916	5.738 5.738	2'04.684	5 / 6	Rn-sports制動屋Vieureka
3	7			渡会 太一	KK-S II	6	12'39.449	7.271 1.533	2'04.530	5 / 6	FTKレーシングカレッジ
4	1			元山 泰成	KK-S II	6	12'39.892	7.714 0.443	2'05.096	4 / 6	Ecotech Racing F
5	27			豊島 里空斗	KK-S II	6	12'40.050	7.872 0.158	2'04.669	5 / 6	C.S.I Racing ED
6	36			磐上 隼斗	RD10V	6	12'43.162	10.984 3.112	2'05.380	4 / 6	アルビ富士吟景GIAED
7	55			板倉 慎哉	KK-S II	6	12'43.980	11.802 0.818	2'05.260	5 / 6	AMORE TOKYO☆表参道☆KKS II
8	83			榊木 大河	RD10V	6	12'44.704	12.526 0.724	2'05.040	6 / 6	ZAP SPEED RD10V ED
9	23			宇高 希	RD10V	6	12'45.282	13.104 0.578	2'05.296	6 / 6	TAKE FIRST R&D
10	17			飯田 有希	KK-S II	6	12'52.346	20.168 7.064	2'06.749	6 / 6	FarEastRacing・KK-S II・D-BONDS
11	53			椎橋 祐介	KK-S II	6	12'56.660	24.482 4.314	2'04.158	3 / 6	FG&SW NMSP 919 KKS2
12	21	G	1	太田 浩	KK-S II	6	12'58.628	26.450 1.968	2'07.723	4 / 6	ミスト・セキグチ・制動屋
13	24			甲山 晴翔	RD10V	6	13'03.200	31.022 4.572	2'08.313	4 / 6	Vivalavida でさん子10VED
14	78	G	2	柴田 泰知	RD10V	6	13'17.459	45.281 14.259	2'08.407	4 / 6	ZAP SPEED RD10V ED
15	71			迫 隆真	KK-S II	4	8'23.980	2Laps 2Laps	2'04.177	3 / 4	EAGLE ERS S-FJ

***** 以上、ファイナル進出 *****

セミファイナル B グループ

セミファイナル B グループの PP は小田選手で、フロントローを分け合ったのは田中選手。このふたりは、ともに好スタートを切ったのに対し、3 番手の堂園選手はやや出遅れ、1コーナーまでに内田選手が前に出る。

1周目を終えた段階で、小田選手は田中選手にコンマ 8 秒の差をつけるが、そのまま広がっていくことはなく、むしろじわりと詰められていく。中盤にはコンマ 5 秒を切るまでとなるが、そこは意地の踏ん張りも。4周目にファステストラップ 2 分 3 秒 809 を記した小田選手は、残り周回も 2 分 3 秒台でのラップで、辛くも田中選手を寄せつけず。12 分 30 秒 724 で6周を走り抜いた結果、ファイナルにも PP で臨むことが決定した。

3 番手争いも最後まで続き、内田選手、堂園選手、そして角間光起選手(ELEVレーシング 10V ED)の三つ巴となっていたが、最後まで順位は動かず、内田選手が 3 位でゴールした。

セミファイナル B グループ 1 位;小田優選手(AUTOBACS Drago CORSE)

「PP 撮りたかったので、最後までアクセルは緩めませんでした。もっと差をつけられるかと思ったんですが、予想していたより広がらなくて、そこが心配ですね。明日の理想は、普通に逃げたいですよ。難しいでしょうけど、頑張ります」

セミファイナル B グループ 2 位:田中風輝選手(24system タイヤサービス M2 KK-SII)

「ちょっとペースが足りなかったですね。6周じゃちょっと、短かったのもあって。前半遅いのが反省点で、明日は前半からプッシュして、後半うまいことやれたらいいなと思っています」

セミファイナル B グループ 3 位:内田涼風選手(群馬トヨペット RiNoA ED)

「競り負けはしなかったんですが、ちょっとトップ2から離されちゃったので、納得はしていません。まだ足りないところが、やっぱり西野選手と比べても違うところがあるから、それをなんとか改善したいですね。車の方でもいろいろ見直したいと思います」

Pos	No	Class	C.P.	Name	Type	Lap	Total Time	Delay / Gap	Best	B/L	CarName
1	34			小田 優	KK-S II	6	12'30.724		2'03.809	4 / 6	AUTOBACS Drago CORSE
2	2			田中 風輝	KK-S II	6	12'31.314	0.590 0.590	2'03.826	6 / 6	24systemタイヤサービス M2 KK-S II
3	82			内田 涼風	KK-S II	6	12'38.730	8.006 7.416	2'04.691	3 / 6	群馬トヨペットRiNoA ED
4	56			堂園 蒼	KK-S II	6	12'38.805	8.081 0.075	2'04.416	2 / 6	Kテントルオフィス☆ミスト
5	72			角間 光起	RD10V	6	12'39.048	8.324 0.243	2'04.538	3 / 6	ELEVレーシング10VED
6	81			池内 比悠	KK-S II	6	12'41.012	10.288 1.964	2'04.574	3 / 6	群馬トヨペット RiNoA ED
7	97			池田 拓馬	KK-S II	6	12'41.158	10.434 0.146	2'04.603	3 / 6	TAKEFIRST & AMERIOD
8	52			小村 明生	KK-S II	6	12'41.369	10.645 0.211	2'04.804	3 / 6	FIRST GARAGE REAXION
9	86			村田 将輝	KK-S II	6	12'42.149	11.425 0.780	2'05.135	4 / 6	湘工冷熱ZAPSPEED ED
10	57	G	1	吉田 宣弘	KK-S II	6	12'42.824	12.100 0.675	2'05.104	4 / 6	EXTREME☆MYST☆GY☆KKS-II
11	15			小田部 憲幸	RD10V	6	12'43.649	12.925 0.825	2'04.745	4 / 6	いえらいふ・ZAP 設楽 小山田会 ED
12	79			中澤 凌	RD10V	6	12'47.834	17.110 4.185	2'05.256	5 / 6	ZAP NAKs 10VED
13	16	G	2	大貫 直実	F109	6	13'13.068	42.344 25.234	2'09.926	3 / 6	グレート1・オートレット・SUZUBAN F109
14	37			青木 諒太	RD10V	6	13'13.527	42.803 0.459	2'09.591	3 / 6	かのせ温泉赤湯with Albirex RT ED GIA
15	14			熱田 行雲	RD10V	6	13'15.147	44.423 1.620	2'07.456	2 / 6	ZAP10VED
16	69			梅本 幸汰	KK-S II	3	6'31.361	3Laps 3Laps	2'07.267	3 / 3	Rn-sports制動屋KK-S2

***** 以上、ファイナル進出 *****

■ファイナル

セミファイナルのトータルタイムにより、B グループ 16 台がポールポジション側の左列になり、A グループ 15 台は予選 2 位側の列となった。



ファイナルは 10 周での争い。それにしても、今年のドライバーたちはよほど日頃の行いがいいのか、このレースウィークは絶えず天候に恵まれ、ファイナルもまた雲ひとつない青空の下で行われた。

スタートを決めたのは白崎選手。PP の小田選手を1コーナーのインからかわそうとするも、ここでの逆転はならず。その後方では村田選手が田中選手と順位を入れ替え、そして内田選手、元山選手、堂園選手……といった順で1コーナーを抜けていく。

オープニングラップのうちに小田選手、白崎選手は早くも3番手争いを引き離していく。ふたりはともに、TAKE FIRST がメンテナンスを担当するドライバー。いわばチームメイトとも言える相手とあって、気心も手の内も知り尽くしている。だからというわけではないが、仕掛けも早かった。3周目の3コーナーで白崎選手がトップに立って、90度コーナーでの逆転を阻止。

ほぼタイミングを同じくして、セミファイナルのリタイアで30番手スタートを強いられていた迫選手がピットに戻ってくる。今度はエンジントラブル。ジャンプアップ賞の期待がかかり、1周だけで5ポジションアップを遂げていたというのに……。

一方、トップ2から離されてしまったとはいえ、3番手争いはまたも熾烈。3周目に田中選手が村田選手をかわし、その激し



さゆえに一時は離していた後続を大量に近づけてしまう。5周目には渡会選手が4番手に上がった勢いで、次の周には田中選手をもかわすも、そのまま振り切るまでには至らない。やがて堂園選手、内田選手、池内比悠選手(群馬トヨペット RiNoA ED)を交えた6台での戦いになっていく。

そしてトップ争いも動く。7周目の5コーナーで小田選手が前に出ると、白崎選手も次の周に5コーナーで再逆転。まだまだ終わらない。9周目の90度コーナーで小田選手がインを刺すが、アウトで白崎選手がしっかり踏ん張った。残すは最終ラップ。5コーナーでインから迫った小田選手が、ややワイドに立ち上がったから、接触を回避するため白崎選手は縁石に乗らざるを得ず。90度コーナーでの仕掛けは許されなかったが、最後の直線をコンマ174秒差で駆け抜けたのは、せめてもの意地だったはずだ。

2023年のSuper FJ日本一の座を射止めた小田選手は、6月の富士でデビューを果たし、ここまで5レースを経験。もてぎ・菅生シリーズ最終戦の3位が最上位だけに、大金星を獲得したといっても過言ではないだろう。白崎選手は鈴鹿・岡山シリーズ、ジャパンリーグの三冠獲得ならず、レース後には悔しそうな表情を隠し得ず。

3番手争いも最後まで激しく繰り広げられ、8周目に田中選手が再び3番手に浮上し、9周目には渡会選手が堂園選手にも抜かれて5番手に。これで決着がついた。6位は池内選手が獲得。

ジャンプアップ賞は23番グリッドからスタートの椎橋選手が、12位でゴールして11台抜きとして授与された。

そしてジェントルマン賞は11位でゴールの吉田宣弘選手(EXTREME☆MYST☆GY☆KKS-II)が、長年のSuper FJ参戦に対する功績を讃える、「特別賞」とともに獲得している。



優勝:小田優選手(AUTOBACS Drago CORSE)

「速さがあったから、勝てました。決め手となったのは、やっぱり持ちタイムという感じですかね？ 序盤、バトルになってタイヤを使い過ぎちゃったので、タレないように中盤は温存していたので、それが最後に影響したのかと思います。めっちゃ嬉しいです！ 来年のことはまだ決まっていなくても、F4 行きたいですね」



2位:白崎稜選手(TAKE FIRST スタッフリソース& QUICK 羽生)

「ストレートでは負けて、ブレーキでは優っていたから、バトルでは勝てると思っていたんですが、最後に押し出されたのが、すべての敗因です。まあ、これがレースですね。小田選手もいいドライバーなので、ちゃんとラインは開けて僕のことを見ていてくれたので、あんなバトルができたのは、彼だから……。確証はないですけど、来年はF4 にステップアップしていければ、と考えています」



3位:田中風輝選手(24system タイヤサービス M2 KK-SII)

「ちょっと序盤、マシンに一瞬エンジントラブルがあったので、そこで3位の争いに飲み込まれてしまったので、それがなかったら……。結果は変わらないですけど、それが悔しいです」



ジェントルマンクラスの表彰

15 時から表彰式が行われた。全国 4 地方選手権チャンピオンの表彰、S-FJ ジャパンリーグ年間上位 3 名の表彰が行われ、そして、日本一決定戦の表彰式が行われた。セミファイナル賞、ジェントルマン賞、ジャンプアップ賞、そしてファイナルレースの表彰が行われ、日本一を勝ち取った小田選手には歴代日本一決定戦優勝者名の入った大カップが贈られた。



ファイナル 1~10 位の表彰



日本一の大カップと小田選手



S-FJ 地方選手権チャンピオンの 4 名の表彰



S-FJ ジャパンリーグの表彰



JSS 特別賞の表彰

スーパーFJ ファイナル

2023 / 12 / 10



正式結果表

Weather :Fine
Track :Dry

Road Course(4,801m)

Pos	No	Class	C.P.	Name	Type	Lap	Total Time	Delay / Gap	Best	B/L	CarName
1	34			小田 優	KK-S II	10	20'54.281		2'04.027	6 / 10	AUTOBACS Drago CORSE
2	91			白崎 稜	KK-S II	10	20'54.455	0.174 0.174	2'04.059	5 / 10	TAKEFIRST スタッフリソース & QUICK羽生
3	2			田中 風輝	KK-S II	10	20'58.196	3.915 3.741	2'03.877	10 / 10	24systemタイヤサービス M2 KK-S II
4	56			堂園 颯	KK-S II	10	20'58.797	4.516 0.601	2'04.182	10 / 10	Kデンタルオフィス☆ミスト
5	7			渡会 太一	KK-S II	10	20'59.610	5.329 0.813	2'04.499	10 / 10	FTKレーシングガレージ
6	81			池内 比悠	KK-S II	10	21'01.373	7.092 1.763	2'04.923	3 / 10	群馬トヨペット RiNoA ED
7	82			内田 涼風	KK-S II	10	21'03.079	8.798 1.706	2'04.956	6 / 10	群馬トヨペットRiNoA ED
8	11			村田 悠磨	KK-S II	10	21'03.264	8.983 0.185	2'04.699	2 / 10	Rn-sports制動屋Vieureka
9	97			池田 拓馬	KK-S II	10	21'03.796	9.515 0.532	2'04.559	8 / 10	TAKEFIRST & AMEROID
10	27			豊島 里空斗	KK-S II	10	21'04.117	9.836 0.321	2'04.675	7 / 10	C.S.I Racing ED
11	57	G 1		吉田 宣弘	KK-S II	10	21'05.032	10.751 0.915	2'05.094	3 / 10	EXTREME☆MYST☆GY☆KKS-II
12	53			椎橋 祐介	KK-S II	10	21'06.356	12.075 1.324	2'04.748	8 / 10	FG&SW NMSP 919 KKS2
13	1			元山 泰成	KK-S II	10	21'06.584	12.303 0.228	2'05.082	4 / 10	Ecotech Racing F
14	36			磐上 隼斗	RD10V	10	21'06.817	12.536 0.233	2'04.995	8 / 10	アルビ富士吟景GIAED
15	86			村田 将輝	KK-S II	10	21'07.405	13.124 0.588	2'04.897	8 / 10	湘工冷熱ZAPSPEED ED
16	79			中澤 凌	RD10V	10	21'07.794	13.513 0.389	2'04.795	4 / 10	ZAP NAKs 10VED
17	52			小村 明生	KK-S II	10	21'09.208	14.927 1.414	2'05.109	10 / 10	FIRST GARAGE REAXION
18	15			小田部 憲幸	RD10V	10	21'12.459	18.178 3.251	2'04.840	5 / 10	いらいらふ ZAP 設楽 小山田会 ED
19	23			宇高 希	RD10V	10	21'13.929	19.648 1.470	2'05.154	5 / 10	TAKE FIRST R&D
20	55			板倉 慎哉	KK-S II	10	21'18.464	24.183 4.535	2'06.322	5 / 10	AMORE TOKYO☆表参道☆KKS II
21	83			樺木 大河	RD10V	10	21'23.415	29.134 4.951	2'05.532	5 / 10	ZAP SPEED RD10V ED
22	14			熱田 行雲	RD10V	10	21'26.884	32.603 3.469	2'05.573	7 / 10	ZAP10VED
23	72			角間 光起	RD10V	10	21'28.020	33.739 1.136	2'04.970	5 / 10	ELEVレーシング10VED
24	17			飯田 有希	KK-S II	10	21'29.333	35.052 1.313	2'06.740	6 / 10	FarEastRacing-KK-S II -D-BONDS
25	21	G 2		太田 浩	KK-S II	10	21'43.575	49.294 14.242	2'08.150	10 / 10	ミスト・セキグチ・制動屋
26	24			甲山 晴翔	RD10V	10	21'51.611	57.330 8.036	2'08.453	6 / 10	Vivalavida でさん子10VED
27	37			青木 諒太	RD10V	10	21'57.814	1'03.533 6.203	2'09.518	9 / 10	かのせ温泉赤湯with Albirex RT ED GIA
28	78	G 3		柴田 泰知	RD10V	10	21'58.105	1'03.824 0.291	2'07.374	6 / 10	ZAP SPEED RD10V ED
29	16	G 4		大貫 直実	F109	10	22'24.461	1'30.180 26.356	2'09.748	5 / 10	グレート1・オートレット・SUZUBAN F109
***** 以上完走 (規定周回数 : 7Laps) *****											
69				梅本 幸汰	KK-S II	4	8'40.279		2'05.481	3 / 4	Rn-sports制動屋KK-S2
71				迫 隆真	KK-S II	1	2'22.589		2'22.589	1 / 1	EAGLE ERS S-FJ



